

2013年9月13日
日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、着実に持ち直している。

すなわち、輸出は、持ち直し傾向にあり、個人消費も、消費者マインドの改善などから、緩やかに持ち直している。設備投資は、全体として持ち直してきている。公共投資は増加している。こうしたもとで、生産は緩やかに増加しており、雇用情勢も緩やかに改善している。

先行きについては、海外経済、為替相場や金融市場、国際商品市況の動向などに注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、持ち直し傾向にある。

設備投資は、堅調な非製造業に加え、製造業でも前向きな動きが徐々に増加しており、全体として持ち直してきている。

個人消費は、消費者マインドの改善などから、緩やかに持ち直している。

7月は、百貨店販売は、セール前倒しの影響などから、前年を下回った。スーパーは、弱めの動きが続いている。家電販売額は、下げ止まりつつある。乗用車販売は、堅調に推移している。外食売上高は、持ち直している。旅行取扱高は、海外を中心に前年を下回っている。

住宅投資は、増加している。

7月の住宅着工は、持家、分譲、貸家のいずれも前年を上回った。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、緩やかに増加している。この間、在庫は横ばい圏内の動きとなっている。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、労働需給は緩やかに改善している。この間、賃金は弱い動きとなっているものの、雇用者所得は、振れを均してみると、なお横ばい圏内の動きとなっている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、プラス幅が拡大している。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、基調としては、前年比伸び率が高まっている。

貸出残高は、住宅ローンの増加などを背景に前年を上回っている。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上